

ゼミナール紹介

担当者名	井徳正吾
e-mail アドレス	itoku@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	4310 研究室
在室曜日・時限	火曜・水曜・木曜（～19：00）
個別説明会 （日時・場所）	随時研究室にて
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	10月10日 10：00～12：30 4303 教室 10月24日 10：00～12：30 4303 教室
選抜方法	志願者が多い場合のみ GPA 成績または面接により選抜する
ゼミナールに 関連する科目	マーケティング・リサーチ、社会調査、コミュニケーション戦略論、クロスメディア コミュニケーション戦略論、戦略 PR 論
2018 年度担当科目	コミュニケーション戦略論、クロスメディアコミュニケーション論、広告論、マーケ ティング・コミュニケーション論
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>広告、PR、セールスプロモーションなどのマーケティング・コミュニケーションを用いて企業が抱える課題解決の術を学ぶのがこのゼミです。具体的には、神奈川経済同友会が主催する「産学協同チャレンジ・プログラム」に参加し、企業から提示される実際の課題に取り組みます。作業に当たっては、マーケティング・リサーチを行い、調査結果に基づいて課題を設定し、解決策を考案していきます。解決策では、広告表現、ロゴマーク、キャラクター、メディア、プレスリリース、PR の具体的制作物など、様々な販促物の制作を行います。時にはパッケージデザイン、店舗デザイン、ユニフォームなどの提案も行います。そして企業に出掛けて行ってプレゼンテーションをします。ビジネスの現場で活かせる作業を一気通貫で学びます。</p> <p>ゼミを志望する学生は、よくこのゼミのことを理解して志望してください。正しいことも、誤ったこともキャンパス内にはたくさんあります。大事なのは自分の目で確かめること。自分は“頑張り屋さんだ”と思う人はこのゼミに是非来てください。一緒に頑張りましょう。</p> <p>4年生になったら、卒論を選ぶ・卒業制作を行う、いずれも可です。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	加藤綾子
e-mail アドレス	ガイダンス時に伝達する
研究室	6208
在室曜日・時限	原則として水曜日の昼休み(授業時に確認してください)
個別説明会 (日時・場所)	10月4日(木)と10月11日(木)の昼休み 4202 教室 (予約不要. 飲食可) ※ゼミ履修希望者は、ゼミ見学日または個別説明会にて直接相談をしてください。 見学や説明会に来られない場合のゼミ選択に関する質問: edu-gakusei まで.
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	10月中の水曜日(休校日を除く)の2限, 7402 教室, 入退室自由 ※7号館1階エレベーター横のスペースにて, ゼミ3年次の成果物を展示中.
選抜方法	志望理由書, 面談, 成績をもとに総合的に判断する.
ゼミナールに 関連する科目	下記科目
2018 年度担当科目	卒業研究, ゼミナール, プレゼミナールB, 広告表現論, コミュニケーション倫理・法制, テレビコマーシャル論, 情報学特殊講義B, 著作権ビジネス論
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>このゼミナールでは、情報・メディア・コンテンツ・広告などに関する基礎的な文献講読を行い、その上で、各自がテーマを定めて調査・分析・報告を行う。本ゼミナールのアプローチは社会科学系の手法に則る。学生は毎回、文献の担当箇所や各自の進捗状況について報告を行う。最終報告の形式は、論文の体裁をとったレポートとプレゼンテーションの双方を予定している。これらの作業を通じて、デジタル化・ネットワーク化などの変化が生じるなかでこの分野の産業やビジネス、企業、消費者、財・サービス、法制度などがいかに変容しているのかを考え、卒業研究につなげていくことを目標とする。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	酒井 信
e-mail アドレス	wayne80@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3401
在室曜日・時限	火木金
個別説明会 (日時・場所)	10月3日、10日、24日の12:45～13:10 場所:3401 研究室 *参加する場合は前日の24時までにメールすること(事前の情報伝達のため)。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	10月3日(水)、10日、24日 場所:1208 教室
選抜方法	希望者が定員を上回った場合のみ、面談、志望理由、学内外の活動、成績、将来性を総合的に評価し、選抜。
ゼミナールに 関連する科目	基礎演習 A、プレゼミナール B、文章演習 I II
2018 年度担当科目	ゼミナール、卒業研究、基礎演習 A、プレゼミナール B、文章演習 I II、ジャーナリズム論、現代メディア史、小説・評論演習
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>(ここからご執筆ください)</p> <p>なお本ゼミでは、活字メディアを中心としたコンテンツ分析を主とした演習を行う。年度毎にテーマを定め、同時代の社会事象に関する分析を行い、文章や制作物としてその成果を反映させる。同時進行でメディア文化論に関する書籍を読み、広義のメディア社会学に関する知識を身に付ける。その他、神奈川県(特に湘南地方)を舞台としたコンテンツについての取材・分析も行う。外部のメディア関係者に課題の評価を行ってもらう機会も用意する。各課題を通して、手を使って活字を漁り、足を使って様々な人や場と関わり、頭を使ってその成果を論理的にまとめ上げるトレーニングを積んでほしい。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	竹林 紀雄
e-mail アドレス	noritake@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3411 号室
在室曜日・時限	ゼミ志望者へは水曜日 2 時限目終了後に 3 号館 1 階の 3114 教室で対応
個別説明会 (日時・場所)	個別説明会 10/3 (水) 15:00~16:30 場所未定 10/10 (水) 16:00~17:00 場所未定 10/24 (水) 12:30~13:00 場所未定 <u>※希望者一人ひとりに竹林が直接お会いして説明しますが、他の業務と時間調整をしながら行いますので、必ず、メールで予約をしてください。場所はメールで伝えます。</u>
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	※基本的に 2 時限目に対応 10/3 スタジオ A (3、4 年生合同でスタジオ収録リハーサル) 10/10 スタジオ A (3、4 年生合同でスタジオ収録本番) 10/24 スタジオ A (3、4 年生合同でスタジオ収録本番) <u>※収録中のスタジオは収容人数に限りがあります。</u> <u>ゼミ見学を希望する場合は、必ず竹林にメールで予約をしてください。</u>
選抜方法	志望者は原則的に受け入れます。ただし、定員を上回った場合のみ面接、簡単な試験等により選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	3 セメスターまで ○演習系科目 「映像表現Ⅰ」、「映像ポストプロダクション演習 (映像編集・MA・完パケ)」=「映像ポストプロダクション演習」、「映像技術演習Ⅰ」=「映像技術演習」、「映像プリプロダクション演習Ⅰ (企画)」=「テレビ企画構想演習」 4 セメスター以降 ○演習系科目 「映像表現Ⅱ」、「映像技術演習」、「テレビ番組制作 (スタジオ)」、「アニメーション制作 C (アート表現)」 「映像プリプロダクション演習Ⅱ (構成)」=テレビ構成演習 ○講義系科目 「ドキュメンタリー論」、「映画史」、「映像表現論」、「映像プロデュース論」 <u>特に「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」は竹林ゼミナールにつながる科目です。</u>
2018 年度担当科目	「卒業研究」、「ゼミナール」、「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」、「ドキュメンタリー論」、「映像表現論」、「映画史」、「映像プロデュース論」、「テレビ番組制作 (スタジオ)」、プレゼミナール A「映像メディア特論」(大学院)、「情報学特別演習Ⅰ」(大学院)
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>竹林ゼミナールでは、在京テレビ局をはじめ映像業界と連携し、テレビ・映像分野全般のプロフェッショナル育成を視野に入れた映像表現教育を行う。具体的には、様々なジャンルの独創的な映像作品を鑑賞し、映像表現への理解を深めると共に、映像作品の制作に取り組む。課題作品の制作に臨むにあたってゼミ生に求めるのは、これを課題として捉えるのではなく、対外的にも「作品」として主張できるものを手掛ける姿勢をもつことである。優れた作品は、映画祭や映像フェスティバルに積極的に橋渡しをする。ゼミの課外活動としては、日本テレビやフジテレビ等で行うテレビ局研修。テレビ局内の様々な放送施設を見学し、局内のスタジオやサブルームで生放送番組を体感する研修である。また、ゼミ生全員参加で毎年実施する合宿形式の研修も行う。今期も 3 泊前後で国際的な映画祭などへ参加する予定である。この他にも、主に都内での映像作品の鑑賞や映像フェスティバルへの参加、またテレビ業界や映画業界の第一線で活躍する方々との交流も予定している。さらに、学外での取材・ロケの実習を日常的に行う。このように、ゼミ活動に時間を要するので、部活動やサークル、アルバイトなどで忙しい方には向かないゼミである。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	バンクス祥恵
e-mail アドレス	banks@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6218
在室曜日・時限	水 1-2 限、木 2-3 限、金 1-3 限
個別説明会 (日時・場所)	水 2 限または、木・金 *来る前に必ずメールでアポイントを取ってください。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	水 2 限 *来る前に必ずメールでアポイントを取ってください。
選抜方法	志望動機 A4 1 枚
ゼミナールに 関連する科目	プレゼミ B
2018 年度担当科目	英語 IB, IIB, プレゼミ B, ゼミ, 卒業研究
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>テーマ「メディアと異文化コミュニケーション」 主な研究活動は以下の 3 つです。</p> <p>①グループプロジェクト 各グループでテーマを決め、制作活動や調査を行います。 留学生や日本に住む外国人を対象に成果を発表し、フィードバックをもらいます。</p> <p>②グループ研究 プロジェクトのテーマに合わせて必要な文献調査、身近なものの比較分析を行います。また、言語や文化の壁を超えて情報を発信・受信するためには、どのような表現・コミュニケーション方法が有効なのかを分析します。</p> <p>③レポート 研究活動の成果をレポートでまとめます。 ※英語力は問いません。負担にならないようにサポートします。 ※2018 年度活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本文化の取材 ● 地下アイドルの紹介パンフレットの作成及び留学生とのライブ体験 ● 日本に住む外国人に関する調査

ゼミナール紹介

担当者名	日吉 昭彦												
e-mail アドレス	hiyoshi@shonan.bunkyo.ac.jp												
研究室	5405 hiyoshi lab.												
在室曜日・時限	火曜日（2限は授業です） 水曜日 金曜日（2限&3限は授業です）												
個別説明会 （日時・場所）	<p>個別の説明会： 10/3（水）2限、10/10日（水）2限、10/24（水） @1207教室 ←3年生もいます。</p> <p>個別説明会以外でも、気軽に研究室（5405）までご相談にいらしてください。随時開催します。その場合、メールで事前連絡があると確実ですが、ふらりと立ち寄ってくださっても構いません。放課後もOK。</p>												
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	10/3（水）2限、10/10日（水）2限、10/24（水） （場所はそれぞれ 1207 教室）												
選抜方法	定員を超えた場合は、プレゼンテーションを行う予定です。詳しくは別途連絡します。												
ゼミナールに 関連する科目	社会調査の関連科目はゼミで役立ちそうです。ゼミの成果はフリペ風に出版するので、デザインや編集などが好きな方はウェルカム！過去にはドキュメント制作をしたこともあるので、映像編集ができる方も重宝ですね。あと・・・社会学概論も(^)v												
2018 年度担当科目	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">社会学概論</td> <td style="width: 25%;">メディア社会学</td> <td style="width: 25%;">社会調査論</td> <td style="width: 25%;">メディア調査研究法Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>メディア効果論</td> <td>メディア分析法</td> <td>基礎演習A</td> <td>プレゼミナールB</td> </tr> <tr> <td>ゼミナール</td> <td>卒業研究</td> <td>ベトナムの言語・文化・産業</td> <td></td> </tr> </table>	社会学概論	メディア社会学	社会調査論	メディア調査研究法Ⅲ	メディア効果論	メディア分析法	基礎演習A	プレゼミナールB	ゼミナール	卒業研究	ベトナムの言語・文化・産業	
社会学概論	メディア社会学	社会調査論	メディア調査研究法Ⅲ										
メディア効果論	メディア分析法	基礎演習A	プレゼミナールB										
ゼミナール	卒業研究	ベトナムの言語・文化・産業											
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>なお、本ゼミナールは、メディア社会学やマス・コミュニケーション論、メディア文化論などの分野を専門としたいみなさんと、さまざまなメディア研究を行うゼミです。</p> <p>ゼミナール活動の中心は、1)「テレビ番組の分析」、2) テーマと関連する「取材活動（フィールドワーク）」のどちらか、または両方で、一つのテーマのもとに共同研究を行います。</p> <p>分析するTV 番組は、ドラマやバラエティ、CM、スポーツ中継、アニメ、音楽番組、CATV、インターネット TV など多種多様です。また、フィールド研究のテーマは、地域および観光活性化の取り組みのなかのメディアや広報活動の役割に関するものが多い傾向にあります。</p> <p><u>フィールドの選定や、どのようなテーマで分析を進めるのかについては、受講生のみなさんの関心に沿って、みなさんが主体的に考えて決めていきます。</u></p> <p>共同研究を通じて、メディア・メッセージの分析方法である「内容分析」の方法を身に付け、将来的には多角的な現代社会のメディア（たとえば、ソーシャルメディアなど）を専門的に分析でき、社会でその方法を活用（たとえば、メッセージを分析したビッグデータをマーケティングに利用するなど）ができるようになることが目標です。また、フィールドワークを通じて、インタビュー取材の技術を身に付けるとともに、将来のキャリアに備えた社会的なコミュニケーション能力を身に付けることも合わせて目標とします。</p> <p>ゼミナールでは毎年、研究成果を出版物の形で公開しているので、メディア制作活動もゼミナールの中心的な活動の一つです。</p>												

ゼミナール紹介

担当者名	藤掛正邦
e-mail アドレス	fujikake@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	5407 研究室
在室曜日・時限	月(4限)、木(昼休み&3限)*面談希望者は、前日までにメールで連絡ください。
個別説明会 (日時・場所)	10/10(水)12:35~13:15(5501 教室)で行う学科ゼミナール説明会のみです。今年のゼミ授業、学外研修、ゼミ合宿の内容とゼミ生笑顔をスライド(10分間)で紹介します。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日時:10/3(水)、10/10(水)、10/24(水)、10/31(水)の11:00~12:30(出入り自由)。 教室:7403PC 教室。4日間とも、ゼミ夏合宿で取材撮影した箱根(星の王子さまミュージアム、ガラスの森美術館、大涌谷、芦ノ湖海賊船)の広報PR誌制作のライブ見学。春学期制作の各自作品集も用意する。質問・相談も可能。何度でも見学可能。
選抜方法	大学3年間で制作した作品をA4クリアファイルに入れ10/31までに5407研究室ドア箱に提出。藤掛科目だけでなく他教員科目の制作作品、サークル作品、学外の制作物なども含めてください。定員14名を超えた場合は面談を研究室で予定しています。その場合は、教育支援課から面談日時が連絡されます。GPA2.0以上が望ましい。
ゼミナールに 関連する科目	広告表現Ⅰ、広告表現Ⅱ、メディア表現論(2018年秋からデザイン論に変更)の単位取得済が望ましい。
2018年度担当科目	
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、映像表現・動画・雑誌・ポスター・CG作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を、演習を通じて身につける。</p> <p>なお、本ゼミナールでは、「コミュニケーション」と「メディア」をキーワードに、専門性の高い「広告デザイン」「編集デザイン」制作で発想力と制作力を鍛錬する。到達目標は①デジタル技術をさらに深化させる。②誰も考えない発想力を生み出す。③美しい美術やデザインを読み解く技術と美意識を磨く。④考え抜く習慣を身につける。⑤全員で協力し、ゼミ合宿の企画実施でコミュニケーションとチームワークを鍛える。⑥制作課題を通じて、各自の中に眠っている「表現の萌芽」を発見する。</p> <p>ゼミナール研究作品は、学内のMEDIA GALLERYで発表する。卒業研究の発表会では、研究内容と研究作品について、同級生、後輩、教職員、父兄などの前で口頭発表を行う予定。また、卒業研究作品は学内あるいは学外で展示発表する予定である。</p> <p>ゼミ学生の中には、写真好きでカメラマン修業をする、イラストレーターを目指す、コピー塾に通いコピーライターを志望する、など十人十色に成長していく。メディアやコミュニケーション環境のどんな異変にも対応できるよう、多種類の人材を育成する方針である。足並みをそろえると全滅する可能性もあるので、多様性を重視している。教員はバラつきを嫌い、標準化を図るが、生き延びる潜在力と工夫はどうも学生の方が上だ。卒業6年後の同窓会では、転職して広告代理店でコピーライターをしていたり、Web・アプリデザイナーであったり、結婚し始めていたり。野に放された種が萌芽し、花を咲かせ、珍しい果実を実らせていることは、嬉しく驚くことばかりだった。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ を確認
研究室	3409
在室曜日・時限	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ の office hour を確認
個別説明会 (日時・場所)	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会はおこないません。 ゼミの説明を希望する皆さんへは個別面談をおこないます。 *メールにてアポを取って下さい。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	<ul style="list-style-type: none"> ・見学日は別途資料の通りですが、場所や時間は現在のところ未定です。 *メールにてアポを取って下さい。
選抜方法	選抜方法は面接やGPAなどを総合的評価し選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	なし
2018 年度担当科目	基礎演習 A、基礎演習 B、プレゼミ C、インタラクティブメディア概論、コミュニケーションデザイン演習、クリエイティブ演習
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>本ゼミナールでは、新しい技術を積極的に取り入れ、旧来からの表現の枠にとらわれない新しい視覚伝達の領域を模索していく。映像・紙・Web などのメディアを横断的に学ぶ事により総合的な表現力や情報発信力を習得する事を目的とする。またグループワークを多く取り入れてコミュニケーション能力を高める事も重要な学習目的となる。</p> <p>*詳細は下記を参照してください。</p> <p>https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/</p>